「チームマーシー」をご存知ですか？
記事の承認2021.06.07
– 日本のジュニア海外ツアー参加の専門…目標はグランドスラム出場

▲チームマーシー ツアーチーム

▲世界の国際ジュニア大会に出場し入賞

▲チームマーシー代表　沢田昌昭

日本の沢田昌昭は、日本ジュニアの国際大会出場を助けるチームマーシー（Team Macy）代表コーチだ。

1998年、タイ・バンコクでMTT（Macy tennis Team）を設立し、ジュニアテニス選手育成と国際テニス連盟（ITF）に特化した活動を続け、ジュニアに新しいビジョンを提示し続

けている。
ITFジュニアツアーコーチとして今年で21年を迎える沢田昌昭コーチは、これまで多くの日本人ジュニア国際大会に出場させてきた。

日本だけでなく、タイ、ミャンマー、ネパールのデビスカップチーム、時間を見て北海道の高校で諮問コーチも務めている。

沢田昌昭代表は、英語教師出身でありながら学校のテニス部の監督を務めた我妻諭、西川匠理学療法士、内田恭男メンタルケアコーチとともにチームを運営している。

なぜITFに注目をしたのか

ITFジュニア大会は、世界のジュニアがプロ選手になるために切磋琢磨する舞台だ。指導者は目標を立てて選手を指導し、選手たちは途方もなく大きな夢を抱いている。彼らは、日本のジュニアがその世界を存分に感じ、自分の夢や目標を立てるよう支援している。

ITF国際ジュニア大会は低学年の大会予選からスタートし、グレード4、グレード3、グレード2、グレード1に挑戦、最終的に4つのグランドスラムに出場するステップを踏んでいく。最初はグランドスラムまで行くのに距離を感じるが、夢への第一歩は、誰でも踏み出せとチームマーシーは考えている。

ITFジュニア大会が第一歩

ジョコビッチ、ナダル、フェデラーのようにグランドスラム出場と優勝を目指すならジュニア大会の最高峰であるジュニアグランドスラム大会出場と良い成績が試金石だ。ジュニアグランドスラム大会出場は、国際テニス連盟ジュニア大会で獲得したポイントで出場権を獲得する。

世界に飛躍する価値

ITFジュニア大会は、世界で380大会以上が開かれている。グランドスラムジュニア大会出場のポイントを獲得するには、世界のITFジュニア大会出場が必要である。したがって、海外の多くの国の選手たちと競い勝つことがグランドスラムに出場する唯一の方法なのである。
チームマーシーはこのため早期に海外に飛び出し、街を肌で感じ、海外の選手と切磋琢磨する経験が重要だと考えている。
グランドスラムに到達することは夢ではないと強調している。海外に挑戦する機会は、有形無形でジュニア選手の将来の経験値になるとも考えている。
ジュニア選手たちの夢はまだ漠然としており、計画性がないので、その夢が着実に叶えられるように準備をサポートしてくれる。

チームマーシーのビジョンは、グランドスラムを目指すジュニアの世界への挑戦をサポートすること。グランドスラム出場の夢を持つジュニアが挑戦する第一歩目の入り口を提供するものだ。そして、テニスを通じて世界に挑戦するジュニアに国際化マインドを持たせることにある。

グランドスラムへの課題
1.多くの費用負担

一度の海外遠征（2週間、2大会、選手1人当たり）に約200万～400万ウォンがかかる。
ジュニアグランドスラムに出場するには1年に国際大会10大会出場しながら2～3年間かけてレベルアップすることが必要である。
莫大な費用をかけて実施する海外遠征であるため、良いコンディションで試合続けたい。そのためには技術的・身体的調整、他の国の選手やチームとの接続、語学能力、現地で体調管理が重要である。

2海外遠征に精通した専門家

ITFジュニア大会は、原則として、ジュニアだけでの海外遠征を禁止している。1人以上の成人が率いることが必要である。引率者の航空運賃などの費用を選手が負担しなければならない。
チームマーシーは、ジュニア選手の海外遠征に伴う問題を解決するためにツアーチームを運営する。
海外遠征先の現地カレンダーを考慮に入れ、チームマーシーのスタッフが主導して遠征時の安全性と目標を達成に向けてチームの管理をしている。安全性とコストを考慮し、適正な遠征ルートを決定する。遠征に慣れていない引率者は、専門的なノウハウをベースにした支援を行うことができない。

チームマーシーはジュニア選手がたとえグランドスラムに到達できないとしても、他の場所では経験できない海外の挑戦だけでもジュニア選手にとって有形無形の未来の資産として残るものと考えている。

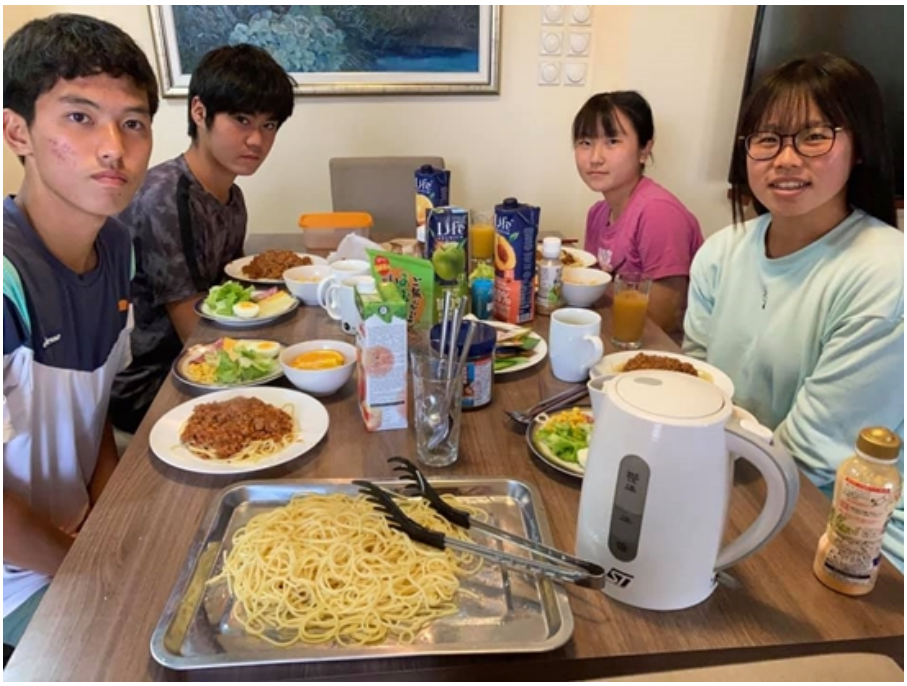
▲食事

遠征の選手募集と管理

チームマーシーは頻繁に遠征参加選手を募集する。
コロナウイルス禍において出入国が大変で航空便を利用しにくい状況にも、次の世代に絶え間ない機会を提供するために、出発の3ヶ月前から遠征団を募集する。

たとえば、キプロス、トルコのイスタンブール、マケドニアの日程でグレード5大会に予選と本選そしてダブルスにエントリーする。
大会に出場すると、Facebookに大会日程と結果、詳細なニュース、日常の食生活、トレーニング状況、会場の風景をポストする。食事はキッチンがあるアパートを探し、直接ケータリングする場合が多い。野菜や肉、炭水化物、果物など、選手が試合してトレーニングするのに十分な栄養を十分に摂取するとともに、コストも管理する。選手が試合に集中してポイントを得るために注力している。シングルスの出場機会がない場合でも、ダブルスでも入賞にして1点でも多く取ることができるように、すべての出場機会を探る。

遠征チームは南米、東欧、トルコなど地中海チームに分かれて運営される。入国条件をクリアするためコロナ検査の陰性証明書を携帯し、頻繁にコロナ検査を受けて移動するのに苦労がないようにする。遠征団に参加した選手たちが一人でも多く出場することができるよう、予選ワイルドカードを各大会本部に頻繁に要請する。
一例として、ケニアと南アフリカ大会本部のトーナメントディレクターに入国意志を伝え予選ワイルドカードを要請する。リクエストが受け入れられるとすぐにホテルを予約してチケットの用意とビザの申請をする。このすべてが時間を争って行われる。出国前PCR検査を遠征団全員で受検し証明書が発行される。
すべての書類手続きが完了したら、旅の安全と勝利のために祈る。チームマーシーはすべてが作戦であり、戦いである。



LONDON
PARIS
NEW YOR
SMOKING AREA
ZONE FUMEURS

COURT 6
Mai HASEGAWA JPN
6 0 40
Ekaterina MAKLAKOVA RUS
2 5 30
BNP PARIBAS
ROLEX